

新企画

研修医・指導医リレーエッセー①



新年度から新企画「研修医・指導医リレーエッセー」が始まります。各医療機関で奮闘するフレッシュな研修医と指導医の先生方に忌憚のない思いを綴っていただきます。テーマは自由。リレー形式で執筆のバトンを繋いでいきます。ご期待ください。初回は、津山中央病院院長で臨床研修指導医の岡 岳文先生です。

研修医の情熱×指導医の情熱

津山中央病院（病院長）臨床研修指導医 岡 岳文

津山中央病院の岡 岳文です。令和7年4月1日より病院長を拝命いたしました。この度は、岡山県医師会 宮本 亨常任理事より、リレーエッセーの依頼を受けましたので、よろしくお願いします。

津山中央病院 卒前卒後 臨床研修センター(卒臨研)

研修医の情熱×指導医の情熱

上記タイトルは病院説明会に使うポスターに使っている言葉で私自身気に入っています。

今回は津山中央病院卒臨研（卒前卒後臨床研修センター）を紹介します。研修管理委員会とは異なり、指導医と研修医の緩やかなグループといった方がいいかもしれません。学生実習の対応、病院説明会など初期研修医の勧誘、研修管理委員会と連動した初期研修医への指導・企画、研修医卒業式の開催など多岐にわたります。各科から集まったスタッフが情熱をもって指導していますが、特に当院研修医OBである救命救急センター長の前山博輝先生や総合内科・感染症内科の藤田浩二先生は情熱ある指導に定評があります。『新幹線や飛行機の中で“お医者さんはいませんか”と言われた時に手を挙げる医者になる』というキャッチフレーズの下、強みである救急や感染症に魅力を感じて集まってくれる志の高い初期研修医が多く、初期研修が終了したときには本当に成長した研修医になっています。（実際にハワイアン航空の機内での救急患者に初期対応を行い、感謝状をいただきました。手を挙げた勇気に敬意）3年目以降は、やはり救急医療に関連のある循環器内科、消化器内科、外科、脳神経外科、整形外科、救命救急科、麻酔科などの科を志望する研修医が多いのが特徴で、多くは当院に残って、下の学年の指導的な立場になっています。ほめ過ぎもよくないので、一つ注文をつけるなら研修医評価であるEPOCの入力が遅く、事務の椋代さんが年度末にやきもきする事でしょうか。

4月になると新しい研修医がやってきます。卒臨研のメンバーは新たな気持ちで指導に当たります。



卒臨研コアメンバー。

左から藤田、前山、竹中、岡、皆川、梶、小林